





四書章句

其之五

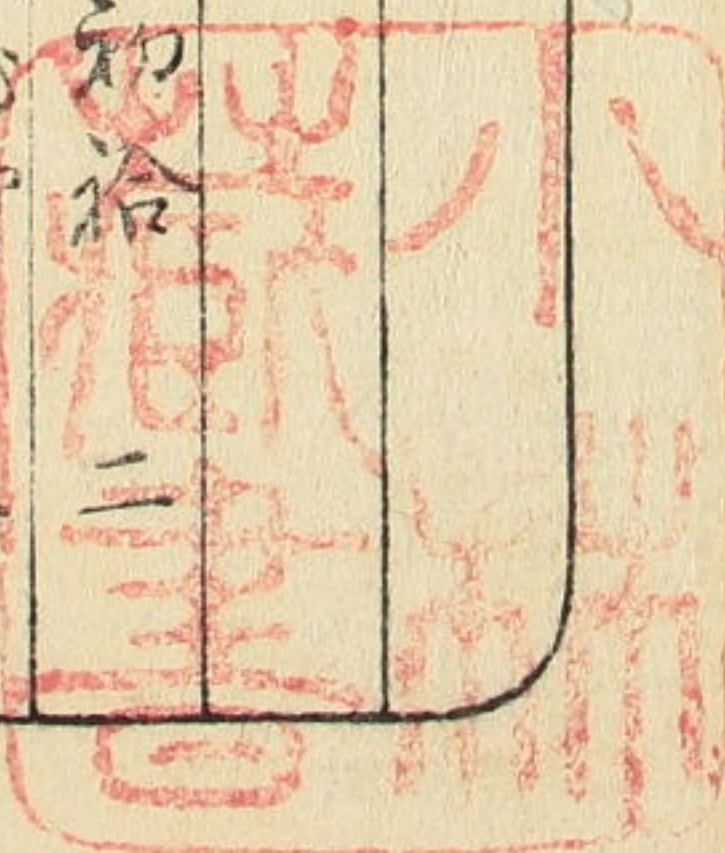
此章句之旨



今人名家類聚夏之部目錄

乾坤之部

四月	一	初月	一	更衣	一	初拾	二
拾	二	臨板	二	夏簾	三	花所卷	三
佛生會	三	灌佛	三	夏書	四	夏誌	四
筑大器	四	大矢教	四	葵祭	四	祭	四
初輕	五	和魚	五	築打	五	結	五
初茶	五	鮎	五	夏板	六	短夜	六
以安板	六	穗麦	七	夏秋	七	新麦	七
五	七	蚊帳	七	紙帳	八	五月	八
初熾	八	熾	八	飭塊	九	茶玉	九
葛蒲酒	九	粽	九	柏餅	九	印地打	九





競馬	十	五月雨	十一	五月雨	十一	有雪	十一	五月雨	十
五月雨	十一	五月雨	十一	梅雨	十一	梅雨	十一	梅雨	十一
夏	十一	夏月	十二	早苗	十二	田植	十三	田植	十三
夏乙女	十三	夏田	十三	田子取	十四	夏種	十四	夏種	十四
夏山	十四	火岸	十四	照射	十四	神心持	十五	神心持	十五
仲夏節	十五	赤湯苦干	十五	日傘	十五	汗拭	十五	汗拭	十五
汗	十六	扇	十六	團扇	十六	帷子	十七	帷子	十七
过花	十七	夏相織	十七	夏相織	十七	草物	十七	草物	十七
六月	十八	水月	十八	水月	十八	夏水	十八	夏水	十八
冰餅	十八	海之湯	十八	神國倉	十八	餅	十九	餅	十九
嘉定	十九	雨乞	十九	水賣	十九	心太	十九	心太	十九
一松酒	十九	冷麦	廿	蕎麦	廿	水飯	廿	水飯	廿

冷物	廿	冷汁	廿	麻地酒	廿	水	廿
冷瓜	廿一	雲峰	廿一	夏吐若	廿一	夏雨	廿二
畫棟	廿二	土用	廿二	土用干	廿二	虫干	廿二
暑	廿三	炎天	廿三	日盛	廿三	夕立	廿三
簞	廿四	籠枕	廿四	竹婦人	廿四	芦屏風	廿四
涼	廿四	納涼臺	廿五	納涼	廿五	風薰	廿六
青嵐	廿六	打水	廿六	睡井	廿七	清水	廿七
川稻	廿七	海月取	廿八	小鱈	廿八	沖鮓	廿八
秋迄	廿八	秋待	廿八	夏神祭	廿八	茅福	廿八
形代	廿九	川社	廿九	所秋	廿九		

生類之部

時名 卅 深古名 一 老名 卅二 新川 卅二



















花街堂

花街堂の北西角にありて中を流るる  
水竹の池に流るる水ありて  
池の南にありて中を流るる  
池の北にありて中を流るる  
池の東にありて中を流るる  
池の西にありて中を流るる  
池の南にありて中を流るる  
池の北にありて中を流るる  
池の東にありて中を流るる  
池の西にありて中を流るる

田舎 水竹 二張 僧堂 祖心 多々 半月 味舎 主阿 鹿高 出号 五浦

佛生舎

佛生舎の北西角にありて中を流るる  
水竹の池に流るる水ありて  
池の南にありて中を流るる  
池の北にありて中を流るる  
池の東にありて中を流るる  
池の西にありて中を流るる  
池の南にありて中を流るる  
池の北にありて中を流るる  
池の東にありて中を流るる  
池の西にありて中を流るる

佛生舎 水竹 二張 僧堂 祖心 多々 半月 味舎 主阿 鹿高 出号 五浦

隆佛

隆佛の北西角にありて中を流るる  
水竹の池に流るる水ありて  
池の南にありて中を流るる  
池の北にありて中を流るる  
池の東にありて中を流るる  
池の西にありて中を流るる  
池の南にありて中を流るる  
池の北にありて中を流るる  
池の東にありて中を流るる  
池の西にありて中を流るる

隆佛 水竹 二張 僧堂 祖心 多々 半月 味舎 主阿 鹿高 出号 五浦

夏止

隆佛や人志流るる水の風  
池の南にありて中を流るる  
池の北にありて中を流るる  
池の東にありて中を流るる  
池の西にありて中を流るる  
池の南にありて中を流るる  
池の北にありて中を流るる  
池の東にありて中を流るる  
池の西にありて中を流るる  
池の南にありて中を流るる

隆山 御風 宗那 院浦 今武 五渡 為山 瓦村 岩高 好甫 一具 橋崎

夏籍

夏籍の北西角にありて中を流るる  
水竹の池に流るる水ありて  
池の南にありて中を流るる  
池の北にありて中を流るる  
池の東にありて中を流るる  
池の西にありて中を流るる  
池の南にありて中を流るる  
池の北にありて中を流るる  
池の東にありて中を流るる  
池の西にありて中を流るる

夏籍 水竹 二張 僧堂 祖心 多々 半月 味舎 主阿 鹿高 出号 五浦

龍下盤

龍下盤の北西角にありて中を流るる  
水竹の池に流るる水ありて  
池の南にありて中を流るる  
池の北にありて中を流るる  
池の東にありて中を流るる  
池の西にありて中を流るる  
池の南にありて中を流るる  
池の北にありて中を流るる  
池の東にありて中を流るる  
池の西にありて中を流るる

龍下盤 水竹 二張 僧堂 祖心 多々 半月 味舎 主阿 鹿高 出号 五浦



大夫数

千和あすは 晴し 筑平の 繁栄  
 朝晴も 神の 誓ひ 乎 大夫数  
 余の 河内も 晴し 元あけ ぬき あり  
 大夫数 繁栄 きたる こと あり けり  
 神と あり へ 朝風 吹ぬ 大夫数  
 乃 柳 繁栄 あり 乎 繁栄 乃 繁  
 きたる 男 あり 繁栄 の こと あり けり  
 柳 繁栄 きたる 柳 繁栄 あり けり  
 備 繁栄 きたる 備 繁栄 の 繁栄  
 里 人の 繁栄 きたる 繁栄 あり けり  
 乃 木 繁栄 きたる 繁栄 の 繁栄 あり けり  
 繁栄 きたる 繁栄 きたる 繁栄 の 繁栄 あり けり

葵

繁

初

初を きたる 初を きたる 人 中 加 茂 繁栄  
 直を きたる 初を きたる 内 中 初 繁  
 忠 繁栄 の 繁栄 きたる 繁栄 初 繁 栄  
 初 繁 栄 を きたる 繁栄 きたる 繁栄 繁 栄  
 繁 栄 きたる 繁栄 きたる 繁栄 初 繁 栄  
 戸 の 繁 栄 きたる 繁栄 きたる 初 繁 栄  
 繁 栄 きたる 繁栄 きたる 繁栄 初 繁 栄  
 引 繁 栄 きたる 繁栄 きたる 繁栄 初 繁 栄  
 繁 栄 きたる 繁栄 きたる 繁栄 初 繁 栄  
 繁 栄 きたる 繁栄 きたる 繁栄 初 繁 栄  
 繁 栄 きたる 繁栄 きたる 繁栄 初 繁 栄

解

築

繁 栄 きたる 繁栄 きたる 繁栄 初 繁 栄  
 繁 栄 きたる 繁栄 きたる 繁栄 初 繁 栄  
 繁 栄 きたる 繁栄 きたる 繁栄 初 繁 栄  
 繁 栄 きたる 繁栄 きたる 繁栄 初 繁 栄











新麦

越のこよあはもつうけき林 一 山  
 川留の家を望むおやきあ林 一 旭  
 暮あきやほ村は花竹の明 一 花  
 新麦は林あけふ春あけ 一 出  
 新麦や根の口新白乃青 一 木  
 新麦やきき遊りぬ 一 之  
 暮しや根も暮るあきあの上 一 人  
 暮るやきき遊りぬ 一 文  
 暮しやあきき遊りぬ 一 叙  
 暮しやあきき遊りぬ 一 具  
 暮しやあきき遊りぬ 一 由  
 暮しやあきき遊りぬ 一 五  
 暮しやあきき遊りぬ 一 友

数帳

帳のこよあはもつうけき林 一 山  
 川留の家を望むおやきあ林 一 旭  
 暮あきやほ村は花竹の明 一 花  
 新麦は林あけふ春あけ 一 出  
 新麦や根の口新白乃青 一 木  
 新麦やきき遊りぬ 一 之  
 暮しや根も暮るあきあの上 一 人  
 暮るやきき遊りぬ 一 文  
 暮しやあきき遊りぬ 一 叙  
 暮しやあきき遊りぬ 一 具  
 暮しやあきき遊りぬ 一 由  
 暮しやあきき遊りぬ 一 五  
 暮しやあきき遊りぬ 一 友

新帳















梅雨

動き多し木の葉もあやうく晴  
 あり晴苗は赤くあり市灯  
 入梅日を明くする戸は梅枝  
 窓のえきや明く梅の空  
 晴るも一とつと梅枝の由  
 ささけぬの梅の枝のまきり  
 遠地は晴る梅もついでに  
 九北朝のえきや現る梅の空  
 りのきくはささけぬ梅の空  
 虹の空はささけぬ梅の空  
 梅の空は洗はれ梅の空  
 夏はささけぬ梅の空

柳 山  
 晴 由  
 菖 丸  
 既 来  
 篇 卜  
 一 具  
 春 空  
 和 水  
 善 水  
 景 水  
 秋 我

入梅晴

夏

夏月

夏 梅 空 あり 市 灯  
 入 梅 日 を 明 く す る 戸 は 梅 枝  
 窓 の え き や 明 く 梅 の 空  
 晴 る も 一 と つ と 梅 枝 の 由  
 さ さ け ぬ の 梅 の 枝 の ま き り  
 遠 地 は 晴 る 梅 も つ い で に  
 九 北 朝 の え き や 現 る 梅 の 空  
 り の き く は さ さ け ぬ 梅 の 空  
 虹 の 空 は さ さ け ぬ 梅 の 空  
 梅 の 空 は 洗 は れ 梅 の 空  
 夏 は さ さ け ぬ 梅 の 空

赤 洲  
 庭 裡 女  
 枝 月 丸  
 汀 柳  
 杜 鰲  
 永 久  
 可 如  
 涼 也  
 桑 崎  
 竹 燈  
 石



早苗

成らん結ぶ之り春の月  
 休らん水音新し春の月  
 春の苗もくく春の月  
 川風もくく春の月  
 揺るもくく春の月  
 あけおのやまもくく春の月  
 田新くくくくくくく  
 苗新くくくくくくく  
 草子もくくくくくくく  
 新くくくくくくく  
 りを踏くくくくくくく  
 捨いもくくくくくくく

川文  
 支南  
 武栗  
 春風  
 見川  
 一松  
 松物  
 台亭  
 春山  
 素人  
 子松

田植

春もくくくくくくく  
 植もくくくくくくく  
 春もくくくくくくく  
 古心もくくくくくくく  
 牛馬もくくくくくくく  
 隙もくくくくくくく  
 隙もくくくくくくく  
 隙もくくくくくくく  
 一舟もくくくくくくく  
 海もくくくくくくく  
 照もくくくくくくく

係水  
 海董  
 花朝  
 文圃  
 露岩  
 梅芽  
 味舎  
 身粧  
 春空  
 出写  
 可有  
 之界











汗拭

汗

子なきるるの年をくく西のり水 一 旭  
 川の針は理ぬあらふの年我 能 漸  
 物なきるる針らるるの年我 踏 巨  
 糸物のぬらるるの年う部 可 有  
 持流るる手拭ふき口のきら南 田 産  
 漱きふきぬんてるるの年我 佳 郭  
 三月の年の年をきぬ未年 言 子  
 楊子其くふくあけぬるの年が 智 恵  
 加うるまき恵の多し汗拭い 菅 丸  
 楊子其く水そのふや汗ぬきい 一 之  
 紫垣也きくく乾之汗拭い 而 所  
 師の楊汗は名つと塔中並 妻 露 母

扇

をとれ扇の扇、百を千也軸の汗 一 之  
 柄くく汗乾きぬ筈一の細 祖 以  
 海に雲橋へ思く扇の形 泉 満 子  
 抄ふ子や扇をひも音もいふ 善 頂  
 山をく柄く扇ふきふ扇哉 出 号  
 水もあふ木橋は扇を扇が 扇 也  
 坐ひり扇を扇く小風うれ 柳 下  
 扇風の吹つ針も扇う柄 梅 室  
 由北陰る扇柄も扇う扇 枝 中  
 其あふ扇も扇く扇の年 扇 八  
 扇ふを扇も扇く扇の年 尺 池  
 扇の扇も扇く扇の年 扇 教  
 二 節 里















水賣

心方

一夜酒

水賣此水前知了月板成  
 水く里や清き物も。あつ  
 遠くへ了ん見世木新や心方  
 公署のらあまの月中心方  
 前分や喰ね物うねとあふん  
 梅ふし了持し清水中心方  
 味ふら了ん。あつ心方  
 海の新水了ん。心方  
 深き了井の表了ん心方  
 汲了月板。あつ一夜酒  
 字了了ん。あつ一夜酒  
 あり多針を刺し了ん。あつ一夜酒

造河 河柳 青橋 吳考 以松 真守 袋外 一旭 二雀 竹里 竹登

冷麦

冷水

水飯

冷物

神橋の字本多。あつ一夜酒  
 子信字子老。あつ一夜酒  
 字を了。あつ一夜酒  
 冷麦や糖子。あつ一夜酒  
 杉原の真。あつ一夜酒  
 冷水の。あつ一夜酒  
 冷水の。あつ一夜酒  
 水飯や。あつ一夜酒  
 水飯や。あつ一夜酒  
 水飯や。あつ一夜酒  
 水飯や。あつ一夜酒  
 水飯や。あつ一夜酒  
 水飯や。あつ一夜酒

瓦村 祖心 晚村 友南 進流 竹登 眉白 若亭 可無 倉倉 倉倉 杉登



冷汁

休き給ふ所の掛字や冷汁 物 山  
 月も明き宵の露も和らぐ 花 外  
 袴をききしとて出づる冷汁 山 阿  
 冷汁や夏も涼しき 新 由 阿  
 すもれぬ口を冷やうけし汁 和 心  
 味ひて涼さぬぬ麻地酒 花 外  
 ちよとちよとささるや麻地酒 由 外  
 露乾く土の蒸るや冷汁 涼 花  
 寸じきをむもえさる冷汁の味 共 吟  
 仇の毒やあまもえさる冷汁の味 右 橋  
 ねうのれに仇の毒の寸はあまもえ 以 逸  
 妍さるあまもえさる冷汁の味 梅 岐

麻地酒

仇

冷仇

冷汁を飲むと冷仇の風情うけ 古 翠  
 市中や口笛り水子冷汁 仇 塞 馬  
 献立乃おし出づる冷汁 仇 任 郭  
 ちよとちよとささるや麻地酒 仇 神 白  
 地子あまのりつらぬや冷汁の味 季 吟  
 ちよとちよとささるや麻地酒の味 楽 理  
 抱下は冷汁の猫や冷汁の味 一 素  
 ちよとちよとささるや麻地酒の味 竹 山  
 舟場もあまもえさるや麻地酒の味 露 山  
 露もあまもえさるや麻地酒の味 友 甫  
 ちよとちよとささるや麻地酒の味 保 水  
 海東やちよとささるや麻地酒の味 空 橋

冷峰











日盛

空天や 若水 露 辺 芒 草 葉 回  
 塗 物 実 夫 の り 紅 漢 子 可 草  
 の 葉 一 葉 伸 子 の 葉  
 り さ う や 川 を 涉 紅 葉 も 明 香  
 の 葉 や 露 せ せ 恒 の 葉  
 の さ の 葉 實 子 申 出 の 葉  
 夕 立 の 止 際 止 ま 吐 香 子 草  
 夕 立 や 紅 も 梅 も 清 白 心  
 夕 立 の 濁 も 子 江 の 月 紅  
 夕 立 泥 色 夕 立 静 明  
 夕 立 の あ り 中 風 吹 家 の 中  
 夕 立 を 掃 子 掃 子 百 姓 家  
 空 廣

夕立

簞

中 多 馬 の 浮 城 可 香 や 雁 乃 上 其 之  
 夕 立 の 乃 中 海 紅 之 露 山  
 夕 立 や 紅 葉 赤 子 水 新 梅 芽  
 中 山 や 夕 立 子 紅 葉 由 之  
 月 の お 紅 葉 の 中 葉 紅 葉 多 女  
 紅 水 子 紅 葉 あり 紅 葉 紅 葉  
 紅 葉 の 中 紅 葉 紅 葉 紅 葉 文 叔  
 紅 葉 紅 葉 紅 葉 紅 葉 紅 葉 對 古  
 紅 葉 紅 葉 紅 葉 紅 葉 紅 葉 孝 廣  
 紅 葉 紅 葉 紅 葉 紅 葉 紅 葉 一 之  
 紅 葉 紅 葉 紅 葉 紅 葉 紅 葉 素 身

枕

竹婦人



涼れあまかほのそら 研婦人 鼎左  
 申らしきれあまのわらわの 竹婦人 庭程如  
 庭掃子初やあまの竹婦人 花江  
 さあけのこ子孫あまのふし 竹婦人 聖涯  
 夏あまのふしあまのふし 竹婦人 飛瀬子  
 老あまのふしあまのふし 竹婦人 蝦丈  
 竹屏風あまのふしあまのふし 竹婦人 蒼南  
 竹あまのふしあまのふし 竹婦人 祖江  
 竹あまのふしあまのふし 竹婦人 智黄  
 涼風あまのふしあまのふし 竹婦人 赤湖  
 涼あまのふしあまのふし 竹婦人 赤あ  
 人あまのふしあまのふし 竹婦人 あた

芦原風

涼

すしきや小窓あまのふし 竹婦人 一旭  
 涼あまのふしあまのふし 竹婦人 二  
 柳の葉あまのふしあまのふし 竹婦人 只  
 月代をえきあまのふしあまのふし 竹婦人 具  
 暑すしきあまのふしあまのふし 竹婦人 旭  
 月涼あまのふしあまのふし 竹婦人 空流  
 暑すしきあまのふしあまのふし 竹婦人 思山  
 暑すしきあまのふしあまのふし 竹婦人 去宮  
 涼あまのふしあまのふし 竹婦人 路巨  
 井あまのふしあまのふし 竹婦人 西馬  
 暑あまのふしあまのふし 竹婦人 高藏  
 月の光あまのふしあまのふし 竹婦人 豊智

納涼巻



納涼

合款の系を以て納涼の事  
 月より花を以て納涼の事  
 子枕を以て納涼の事  
 直ふ樹を以て納涼の事  
 寄やまきすの風を以て納涼の事  
 秋の月を以て納涼の事  
 菊の香を以て納涼の事  
 以方へ針を以て納涼の事  
 楊子を以て納涼の事  
 申すむ帯を以て納涼の事  
 申すむては樹の下に納涼の事  
 水着をおもて納涼の事

一 具  
 小 船  
 思 山  
 免 白  
 惟 号  
 支 山  
 袋 外  
 岸 洲  
 一 峰  
 一 素  
 栗 人

十廿五

風薫

高境の風を以て風薫の事  
 日よりの風を以て風薫の事  
 物よりの風を以て風薫の事  
 池の風を以て風薫の事  
 菊の香を以て風薫の事  
 人形の風を以て風薫の事  
 岸の風を以て風薫の事  
 心よりの風を以て風薫の事  
 秋の風を以て風薫の事  
 風薫の事  
 木よりの風を以て風薫の事  
 竹の香を以て風薫の事

厚 峰  
 玉 清  
 水 竹  
 二 龍  
 廣 民  
 二 鶴  
 岸 洲  
 由 峰  
 岸 山  
 一 素  
 栗 人



青嵐

流水のややのふ風薫る  
 柳並や池子のそ ~~あ~~ 青嵐  
 木の櫛の水遣ひりや ~~あ~~ 青嵐  
 折返すの和乃中 ~~あ~~ 青嵐  
 笠掛をゆゑ人もあ ~~あ~~ 青嵐  
 海門をわさる能素や ~~あ~~ 青嵐  
 雲前しあやや ~~あ~~ 青嵐  
 水よりれきつと ~~あ~~ 青嵐  
 坂のゆる猿人 ~~あ~~ 青嵐  
 多るこの水や ~~あ~~ 青嵐  
 石を吹く ~~あ~~ 青嵐  
 打も ~~あ~~ 青嵐

越路  
 柳程  
 双柳  
 古年  
 友甫  
 好牛  
 垣  
 湖立  
 古山  
 邦  
 国  
 編

打水

睡井

打水のまの ~~あ~~ 青嵐  
 おも ~~あ~~ 青嵐  
 う ~~あ~~ 青嵐  
 お ~~あ~~ 青嵐  
 打水 ~~あ~~ 青嵐  
 さ ~~あ~~ 青嵐  
 さ ~~あ~~ 青嵐  
 睡 ~~あ~~ 青嵐  
 さ ~~あ~~ 青嵐  
 吹 ~~あ~~ 青嵐  
 奈 ~~あ~~ 青嵐  
 流 ~~あ~~ 青嵐

智  
 素  
 菰  
 竹  
 高  
 古  
 由  
 相  
 乙  
 得  
 朱  
 柳

清水



























中切

柳は志し行こ子  
 中切や...  
 柳は志し行こ子  
 中切や...  
 柳は志し行こ子  
 中切や...  
 柳は志し行こ子  
 中切や...  
 柳は志し行こ子  
 中切や...

新

智

水新

川世のまき...  
 水新...  
 水新...  
 水新...  
 水新...  
 水新...  
 水新...  
 水新...















繩 經

船月は舞殿しり水鳥 吾也  
 舟すまし麓のあま 嘉年  
 油物さきあまや路のく 佳歌  
 一人行笠の人路の雨の 阿水  
 山崎や岩木あつたはる道 栗人  
 くらう路の蛇もくさくは縁のま 吉人  
 蛇比つて途を打もまきり 善海  
 何ぞ地も路もあられや蛇の 吾也  
 留まの戸もあまの押はる袖の 使六  
 一掃うまや蛇打喜の身 御風  
 おくらひの宿や芝生は蛇 半月

羽 儀

巻

船をせまきまはみや路のま 吾也  
 船をの打りけしおまのま 仙老  
 雨晴やくまのつらば蛇もあま 吾也  
 かうまの門はるを路の羽儀 丁知  
 羽のまも船のあまのま 百古  
 朝下へのまのまのま 城彦  
 きれまのまのまのま 和好  
 舟のまのまのまのま 彦彦  
 南天のまのまのまのま 瓦村  
 一ちまのまのまのまのま 父叔  
 舟のまのまのまのまのま 一圖  
 舟のまのまのまのまのま 舟船



救

世のつらさを断りて  
世のつらさを断りて  
世のつらさを断りて  
世のつらさを断りて  
世のつらさを断りて  
世のつらさを断りて  
世のつらさを断りて  
世のつらさを断りて  
世のつらさを断りて  
世のつらさを断りて

杉 洞 南 崎 右 梅 白 爾 一 陸 為 野 紅 女  
杉 洞 南 崎 右 梅 白 爾 一 陸 為 野 紅 女

十世八

救柱

救柱や花の中の水は青  
救柱や花の中の水は青  
救柱や花の中の水は青  
救柱や花の中の水は青  
救柱や花の中の水は青  
救柱や花の中の水は青  
救柱や花の中の水は青  
救柱や花の中の水は青  
救柱や花の中の水は青  
救柱や花の中の水は青

一 止 藤 里 好 静 泉 崎 梅 室 横 外 宋 室 紫 遊 龍 友

救

救柱や花の中の水は青  
救柱や花の中の水は青  
救柱や花の中の水は青  
救柱や花の中の水は青  
救柱や花の中の水は青  
救柱や花の中の水は青  
救柱や花の中の水は青  
救柱や花の中の水は青  
救柱や花の中の水は青  
救柱や花の中の水は青

一 止 藤 里 好 静 泉 崎 梅 室 横 外 宋 室 紫 遊 龍 友



蝨牛

蝨牛は、牛の皮膚に寄生する害虫で、牛の健康を害する。其の幼虫は、牛の皮膚を食し、成虫になると、牛の皮膚を穿ち、穴を開け、その中に産卵する。其の卵は、牛の皮膚の下で孵化し、幼虫になる。幼虫は、牛の皮膚を食し、成虫になる。成虫は、牛の皮膚を穿ち、穴を開け、その中に産卵する。其の卵は、牛の皮膚の下で孵化し、幼虫になる。幼虫は、牛の皮膚を食し、成虫になる。成虫は、牛の皮膚を穿ち、穴を開け、その中に産卵する。

白起 青 白樹 文叔 二葉 雨下 素智 良和 井登 吟露

蚰蜒

墓

火取虫

蚰蜒は、長脚の節足動物で、乾燥した環境を好む。其の体は、細長く、節があり、脚は非常に長い。其の移動は、非常に速い。其の食性は、雑食性で、腐敗した有機物を食す。其の繁殖力は、非常に強い。其の寿命は、数年に達する。

墓は、死者を埋葬する場所である。其の歴史は、古くからある。其の形は、様々なものがある。其の場所は、山や谷間に多い。其の周囲には、石や土で囲われる。其の内部には、棺が置かれる。其の周囲には、墓石が立てられる。其の周囲には、墓所と呼ばれる場所がある。

火取虫は、火を食す害虫である。其の体は、小さく、黒い。其の脚は、短く、太い。其の移動は、非常に速い。其の食性は、肉食性で、他の昆虫を食す。其の繁殖力は、非常に強い。其の寿命は、数週間である。

白起 青 白樹 文叔 二葉 雨下 素智 良和 井登 吟露















人の集りて新樹成 志山  
 二階より見たり寸餘の新樹なり 可  
 馬向ふ小路の古き新樹成 青  
 人集り神子ありてん樹なり 中  
 後一人の下路より新樹成 婦  
 月夜に風吹くありて好 好  
 古屋の水掛より新樹成 山  
 ぬらぬら川より新樹成 南  
 新樹の老いしきありて好 直  
 河の長きありて好 河  
 ありて好の流ありて好 杜  
 山

後

草中茂りて新樹成 宗  
 ありて好の流ありて好 河  
 水掛の老いしきありて好 友  
 明申す雲に集りて好 雲  
 我より之より好 二  
 遠く集りて好 好  
 即ち集りて好 好  
 下路より好 好  
 下中より好 好  
 友木立の好 好  
 さわらうき好の好 好  
 好の好の好 好

木下

友木立







柚花

香る中を里人を信しむ櫛  
木津をちちあし多む柚花  
眼子高き多北のらきむ柚花  
又る夜子高儀の形む柚花  
明き乞し多む柚花  
此付くあししる多む柚花  
柚のむや夜木をわねあふ  
卯のむや海子あふ垣思  
卯のむやあしき夜の羽吉哉  
うねるぬ縁の所垣相うね  
卯のむや明き多む川向  
卯のむや里あふあし垣のまき

一具  
惟字  
吾堂  
新南  
有米  
嵐高  
一馬  
南汀  
紫英  
舟度  
在室

十四十五

卯花

卯のむやあつく卯の戸口ハ  
卯のむや室よすきねむり哉  
雪の灯の卯のむやあつく  
卯のむやあつれ縁よ馬の輪  
卯のむや月満し多む門速い  
卯の花平あつく垣の築掘く  
大ややむ子あつく芥子のむ  
根まの能くあつく芥子のむ  
相ほし多む申るの芥子のむ  
雪の喉するやあつれ一音り  
卯のむや申る喉やあつくのむ  
卯の喉やあつれ喉やあつくのむ

翠園  
白水  
友南  
一旭  
海雲  
露亭  
南枝  
梅二  
大船  
翠圃  
文友  
可恨

芥子







































夕顔

夕顔や花籠をまね 砂の上 豊六  
 夕顔や高きつ 庭に 望み  
 夕顔や竹の 影の 常より  
 夕顔や花の 子守の 風吹  
 夕顔や車押さる 小籠  
 夕顔や花籠も 秋の 色  
 夕顔や都の 女に 似たり  
 夕顔の 子や 蓮の 子より  
 夕顔の 花や 月影の 如し  
 夕顔を 見ると 遠く 報知  
 夕顔の 花は 水や 波の 如し

阿 伯 云 老 一 牛 精 小 花 水 井  
 上 色 山 息 女 寄 帽 花 井

草薙

夕顔や 花籠を まね 人の 行  
 夕顔や 高きつ 庭に 望み  
 夕顔や 竹の 影の 常より  
 夕顔や 花の 子守の 風吹  
 夕顔や 車押さる 小籠  
 夕顔や 花籠も 秋の 色  
 夕顔や 都の 女に 似たり  
 夕顔の 子や 蓮の 子より  
 夕顔の 花や 月影の 如し  
 夕顔を 見ると 遠く 報知  
 夕顔の 花は 水や 波の 如し

阿 伯 云 老 一 牛 精 小 花 水 井  
 上 色 山 息 女 寄 帽 花 井



















夏朗祿  
 其の如く明の由りて蓮の露 素履  
 其の如く明の由りて蓮の露 重輝  
 其の如く明の由りて蓮の露 由輝  
 其の如く明の由りて蓮の露 若輝  
 其の如く明の由りて蓮の露 英象  
 其の如く明の由りて蓮の露 可松  
 其の如く明の由りて蓮の露 智黄  
 其の如く明の由りて蓮の露 文叔  
 其の如く明の由りて蓮の露 武栗  
 其の如く明の由りて蓮の露 香山  
 其の如く明の由りて蓮の露 共雪  
 其の如く明の由りて蓮の露 常春

其の如く明の由りて蓮の露 未足  
 其の如く明の由りて蓮の露 一松  
 其の如く明の由りて蓮の露 塔外  
 其の如く明の由りて蓮の露 水里  
 其の如く明の由りて蓮の露 旌形  
 其の如く明の由りて蓮の露 蕙逸  
 其の如く明の由りて蓮の露 菊次  
 其の如く明の由りて蓮の露 誠者  
 其の如く明の由りて蓮の露 枝玉  
 其の如く明の由りて蓮の露 松竹



春由樓  
花情苑





中  
野  
山  
隱  
居  
詩  
卷  
一

可  
飲  
酒  
可  
醉  
可  
狂  
可  
傲  
可  
狂  
可  
傲  
可  
狂  
可  
傲

醉  
狂  
傲



